

さあ肝炎の診療を始めましょう

肝機能異常はどの科で診療しても必ず遭遇する病態です。避けて通ることはできません。消化器肝臓内科はもちろんですが、外科でも、皮膚科でも、眼科でも、精神科でも、必ず肝機能異常を伴う患者さんを診ることになります。肝機能異常のために麻酔がかけられず、大切な手術が延期になることさえあります。

肝機能異常をきたす原因は様々ですが、大きく分けてウイルス感染による肝障害とそれ以外に分けられます(図1)。ウイルス感染のなかでは、肝炎ウイルスの感染によるウイルス肝炎が一番問題となります。ウイルス肝炎は、有病者

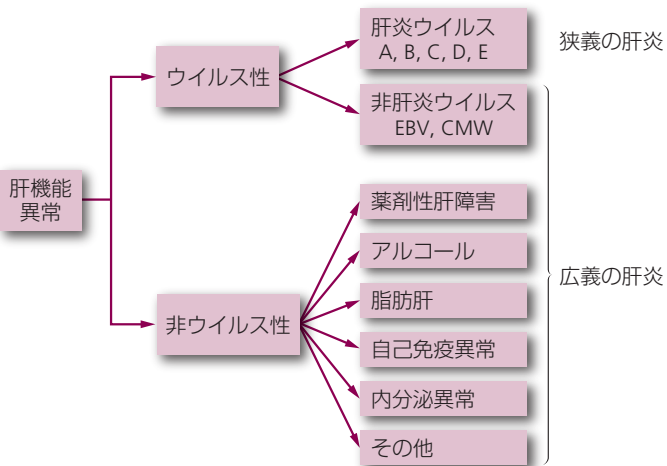


図1 肝機能異常の分類

が多い（頻度が高い）、肝硬変、肝細胞癌に進展するリスクがある（生命予後を脅かす）、血液を介して医療従事者や他人へ感染するリスクがある、治療が難しいなどの問題点があります。肝炎は国内最大の感染症と捉えられており、その制圧は国家的な重要事項となっております。肝炎の克服を目指して、平成 21 年 12 月 4 日に肝炎対策基本法が公布されました（法律第 97 号、下記 URL 参照）。

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou09/hourei_01.html

日本人には 100 人に 1 人の割合で、B 型肝炎ウイルス（hepatitis B virus: HBV）と C 型肝炎ウイルス（hepatitis C virus: HCV）の持続感染者（キャリア: carrier）がいます。肝炎ウイルスキャリアは原則無症状で無自覚のため、感染していることを知らない方が多数存在しています。肝炎ウイルスキャリアはある日突然肝炎が増悪する（急性増悪）こともあれば、無自覚の間に進行して肝硬変、肝細胞癌になってしまうこともあります。肝炎ウイルスキャリアは決して稀ではないため、早く見つけてあげて適切な医療を受けさせる必要があります。

健診を受けた後や、あるいは献血を行って肝炎ウイルスに感染していることが判明する患者もいます。自分が肝炎ウイルスキャリアであると告知されて、心配で外来にくる患者も多いです。このような方に、現在の病態、重症度を適切に説明し、今後何が起こるのかの未来予想や今後の生活および治療の指針を、過度の心配を与えることなく、患者の立場を思っで行えるコツを本書で示していきたいと思います。

ウイルス肝炎の治療には抗ウイルス薬に関する専門的な知識が必要です。薬剤性肝障害は原因と考えられる薬（被疑薬）の中止で治ります。循環器疾患や内分泌疾患や糖尿病・脂肪肝による肝障害は原疾患を治療することで肝機能がよくなります。ウイルス肝炎はウイルス感染症ですので、原因ウイルスを駆除することが治療となります。そのためには肝機能検査および肝炎ウイルスマーカーの意味を理解し、抗ウイルス薬を適切に使いこなす専門的知識が求められます。

かつては慢性肝炎の治療はインターフェロンの注射が主体でした。しかし、2011 年にテラプレビル、2013 年にシメプレビルという新たな経口抗ウイルス薬が保険適用となり、2014 年 5 月にはテノホビル、2014 年 9 月にはダクラ

タスビル、アスナプレビルが発売されたことで変わってきました。今後も新薬発売ラッシュが続く予定です。1-2年後には、副作用の強いインターフェロンの注射を必要としない経口剤だけの肝炎治療が標準的治療となる可能性が高いです。慢性肝炎治療のパラダイムシフトがすぐそこまできています。新しい治療薬についての最新の知識を持つておくことは、どの科の先生にも必要だと思います。国内のウイルス肝炎のガイドラインも、新薬の発売に追われて改訂を急いでいる状況です。今後発売される新薬の意味、使い方も本書で十分勉強していただきたいと思います。

私は卒業して30年間、肝臓病の臨床の場で数多くの患者さんの診療を続けてきました。自分で肝生検を行い、病理の先生と一緒に顕微鏡を覗いてディスカッションしてきました。腹腔鏡下肝生検も肝動脈の血管撮影検査も自分で行ってきました。エコーも自分で走査し、内視鏡で食道静脈瘤の破裂の治療も行い、肝臓の診療に必要なおおよそ全ての手技を経験し、指導してきました。本書では、私が掴んだ肝臓診療のコツを全てお伝えし、若い先生方の診療に役立てていただきたいと思っています。

消化器肝臓内科を研修される先生方が本書を読めば、明日からの研修に必要な知識のほぼ全てが記載されていることに気づくでしょう。肝臓内科を専門としない先生方も、受け持ち患者に肝機能異常がある場合、あるいはウイルス肝炎に感染している場合、何をすればいいか迷うことがなくなるでしょう。肝炎診療の世界は、問診し、診察し、血液検査を行い、エコーをあて、CTやMRIなどの画像検査を行い、肝生検で肝臓病理のミクロの世界を覗き、知識を総動員して行います。肝炎診療は非常にダイナミックで興味の尽きない世界です。さあ、皆様も肝炎の診療を始め、困っている患者さんや心配している患者さんに笑顔を取り戻してあげましょう。

ポイント

本書では私が30年間ベッドサイドで習得し、大学病院や総合病院で若手医師に指導してきた肝炎診療のコツの全てを伝授したいと思います。